



# 1月のほけんだより



令和3年1月発行  
みそのくち保育園

あけましておめでとうございます。連日ニュースで新型コロナウイルスの感染拡大が話題になっていて、いつもとは少し違う年末年始だったかもしれませんが、いかがお過ごしでしたか？急に冷え込む日が続き、体調を崩したりしていませんか？新年を迎えて、気持ちも新たに、ご家庭と協力して健康管理に取り組んでいきたいと思えます。これからもご理解とご協力をお願いいたします。

## 風邪かも？と思ったら

発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、体のだるさ、喉の痛み、咳等の症状がでたら、必ず医療機関を受診しましょう。早期発見早期対処がどんな病気でも一番大切です。

もしも感染症に罹ったら、必要に応じて出席停止期間を守り、登園許可書や登園届をご提出ください。また、ご家族が罹患した場合、罹っていない園児は登園できますが、急な発症に備えていただきたいと思えます。感染拡大を防ぐため、罹患したご家族による送迎や罹患したご兄弟を連れての送迎はお控えいただくようお願いしています。また、園児以外でも、ご家族が罹患された場合は必ずご一報ください。

## 病気でお休みするときは

感染症が流行するこの時期、お休みすることも増えるかもしれません。病気でお休みされる際に「体調不良」・「熱」だけではお子さんの様子が分かりません。お忙しい朝の時間かとは思いますが、以下の点が分かるようにご記入いただくと助かります。

- \*いつごろからどんな症状があるか
- \*熱はどのくらいか
- \*受診はしているか、受診結果
- \*内服薬

等を、キッズリー・電話・職員に口頭でなどいずれの方法でも構いませんのでお伝えいただけるようお願い致します。また、欠席が続く場合は途中で経過をお教えけると大変助かります。

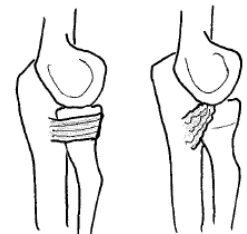
園内での感染拡大を予防するためにも、保護者の皆様のご協力をお願い致します。

尚、保育園がお休み中に新型コロナウイルスに関して①感染した可能性がある②濃厚接触者またはその可能性がある③検査の予定がある④検査結果が出たなどの場合は別途お知らせいたしました園の携帯までご連絡ください。

## 肘内障って？

俗にいう「肘（ひじ）が抜けた」状態のことです。

手をつないで歩いている時、こどもが転びそうになったのでとっさに手を引っ張ったら、急に泣いて手を動かさなくなった。友達に引っ張られたり、遊んでいて転び、不自然に手をついたら突然腕が動かせなくなってしまったというのがよくある起こり方で、肘の関節の亜脱臼の状態です。6歳くらいまで、特に1歳から3歳に最も多く起こります。こどもは突然泣き出し、痛めた方の腕を使おうとしなくなり、触れられることを嫌がります。腕は麻痺をしたようにだらりと垂れ、内側を向いたようになります。泣き止んだり、激しく痛がらなくなり、一見治ったように見える場合も、正しい位置に戻っていない場合があります。



肘内障は、医者にとって診断は難しい物ではなく、何の道具もなく整復（正しい位置に戻す）出来る事がほとんどですが、骨折ではないか別の関節の脱臼ではないか、骨髓炎ではないか、単なる筋肉痛ではないか等「鑑別診断」が不可欠です。自己判断ではなく、必ず受診して診察を受けましょう。

## 歯科検診 2月5日(金) 13時から予定しています。

検診の前日はしっかり仕上げ磨きをお願いします。

また、これを機にご自宅用と園用の歯ブラシのチェックもしていただきたいと思います。毛先が開いたら新しいものと取り換えタイミングです。

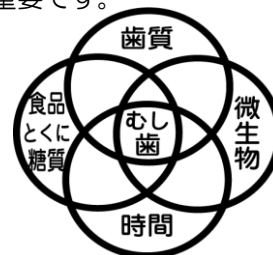
(ただし、状況によっては中止になる場合もあります。)



## どうして虫歯になるの？



歯質・糖質・菌(微生物)・時間の4つの条件が重なり合ったとき、むし歯になります。歯質は遺伝的な要素もあり、それを変えることはできませんが、それ以外の要因は、大人の配慮や、正しい習慣を身につけることでクリアできるもの。特に乳幼児期は、保護者のみなさんのサポートが重要です。



## キッズリーとけんこうてちょうへのご記入をお願いします

新しい年の始まりを機会に、お子様のキッズリーと「けんこうてちょう」を見直していただき、予防接種を受けたり、病気に罹ったりした記録がしっかり記入されているかご確認くださいと思います。今月の身体測定後、必ずご確認ください、新しい情報がございましたらご記入してから返却していただけるようお願いいたします。内服中のお薬やかかりつけ医等、万が一の受診時に重要な情報になります。

また当園では、複数の子どもたちが近い距離で生活するうえで、園医とも相談し、予防接種はできるだけ受けていただくことをお勧めしております。5歳児クラスのお子さんは就学前にMRの追加接種が3月中ならば無料で受けられます。新しいワクチンが導入されたり、制度が変わったりすることもありますので、最新の情報をご確認のうえ、計画的に受けられるようにかかりつけのお医者さんとスケジュールをご検討ください。



## 誤飲をふせぐために

小さな子どもが興味のあるものを口に入れて確かめるのは本能であり、ごく自然な事だと思います。しかし、口の中に隠れる大きさのものは誤飲して窒息してしまう危険性もあります。園では誤飲チェッカー等も使い、特に乳児クラスでは誤嚥してしまう可能性のある大きさのおもちゃは使用せず、口の中に入っているものが無いか注意して観察することを心がけています。

朝や延長保育、土曜保育等の時間帯は乳児クラスで他のクラスの子どもたちが過ごす事があります。万が一お子さんのポケットに小さなおもちゃやシール、アクセサリー等が入っていた場合、もちろん職員は床に誤飲の可能性のあるものが無いか細心の注意を払って参りますが、誤って落ちたものを口に入れてしまう事があるかもしれません。お子さんにとっては危険ではないものであり、1日がんばる為に大切なもの、心のよりどころであったりするかもしれません。保育園で一緒に過ごす小さなお友達の為に、引き渡し前に保護者の方がご確認のうえで、何かお持ちの場合は保管していただけるようご協力をお願いいたします。



12月の感染症 アデノウイルス感染症1名 突発性発疹1名

12月の受診状況 歯科受診 1件 皮膚科受診 3件

眼科受診 1件